

D.感染制御

いちばん感染症対策らしいところ

- ゾーニング（清潔と感染エリアを明確に区切る）
- コホーティング（感染患者をグループとしてまとめ、同じスタッフがケアにあたる）
- 職員の動線の分離
- 感染教育実施

ゾーニング

レッドゾーン

- 防護服を着用するエリア
- PCR陽性者の療養エリア
- 濃厚接触者と疑似例の療養エリア
- この2つは分けることが好ましい

イエローゾーン

- 防護服を脱衣するエリア
- 濃厚接触者の職員の活動エリア（濃厚接触者が働かざるを得ない場合）

グリーンゾーン

- 防護服は着ないエリア
- 応援職員の活動エリア
- 濃厚接触者ではない職員の活動エリア

ゾーニング

部屋移動の基本的な考え方

(札幌市スライドより)

1. 陽性者と濃厚接触者が同室にいることをなくす
2. 濃厚接触者は可能な限り移動を少なくする
3. 濃厚接触者の移動は、可能な限り部屋単位で行う
4. 同室に陽性者のいる濃厚接触者は、可能な限り同室に陽性者のいる濃厚接触者と同室にする
5. 同室に陽性者のいない濃厚接触者は、可能な限り同室に陽性者のいない濃厚接触者と同室にする
6. 収束に向けた再ゾーニングに向けて、可能な限り隔離解除者、陽性者、濃厚接触者という具合にまとめる

日常のゾーニング

- 発熱や風邪症状があるとき
- 個室をレッドゾーンにして、脱衣する場所をイエローゾーンにする

緊急ゾーニング

- PCR陽性者が判明したとき
- まだ感染の全貌は見えないが、感染拡大予防と職員の感染予防対策のためゾーニング
- 普段から分離されているほどゾーニングしやすい

円滑なフロア管理のためゾーニング

- PCR検査と濃厚接触者が確定した時点
- 人手不足になりやすく、職員の負担を軽減しケアのレベルを維持しながら感染拡大予防する
- レッドゾーンの中で感染者と濃厚接触者を分ける

収束を見据えたゾーニング

- 療養終了者が増える時期
- 職員に出口を実感してもらおう

コホーティング

- 利用者を感染者・濃厚接触者・それ以外の者のエリアに分ける
- 固定された医療従事者が感染者をケアすることが望ましい
- 上記ゾーニングと一緒に考える

感染教育

- 教育担当職員を配置する
- 動画をフル活用する
- 流通している動画を利用できるが、自分たちが知っている職員の動画だとインパクトが大きい
- 集合研修（オンラインなどでも可）と個別研修
- 内容としては
 - 個人防護具（PPE）の着脱の研修
 - 感染教育実施
- 通常職員に繰り返し行う
- 応援職員にも必ず感染教育を実施する
- 感染対応経験がありそうな人（DrとかNsとか）にもローカルルールを伝える

職員の動線分離

- 下記職員の動線をできるだけ分離する
 1. 濃厚接触者の職員
 2. 当該フロアで働く応援職員
 3. 当該フロア以外で働く職員
 4. 厨房職員

- 以下の場所をできるだけ分離する
 - a. 玄関
 - b. 更衣室
 - c. トイレ
 - d. 休憩室